

(別紙4-1)

### 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170401358		
法人名	株式会社 ツクイ		
事業所名	ツクイ札幌稲穂グループホーム		
所在地	北海道札幌市手稲区稲穂3条4丁目5番37号		
自己評価作成日	平成24年10月26日	評価結果市町村受理日	平成25年4月24日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「利用者様」という表現から「お客様」へと言葉や表記を替え、接遇の向上を図っています。経営理念でも地域に根付いた真心のこもったサービス提供が具体的に実践できるよう自己研鑽しながら取り組んでいます。お客様の介護度が年々高くなる度に職員が戸惑う場面の見受けられますが成長のステップとしてチーム全体で取り組んでいます。転倒事故を未然に防ぐようヒヤリハット報告を毎日記載し周知しています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL [/index.php?action.kouhyou\\_detail.2011.022.kani=true&JigvosvoCd=0170401368-0](/index.php?action.kouhyou_detail.2011.022.kani=true&JigvosvoCd=0170401368-0)

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 NAVIRE
所在地	北海道北見市本町5丁目2-38
訪問調査日	平成24年11月26日

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは手稲区高台の見晴らしの良い住宅地に位置しており、4階建て建物の2～3階部分をグループホームとして運営しています。ホームは、積極性と指導力のあるグループホーム長の下、管理者、職員は自由に話し合える良好な関係を築き、職員が一体となったケアサービスへの取り組みは、利用者、家族からも感謝の評価を頂いています。運営法人は原点となる「ケアの力」「人の力」を継続するための、人材教育・研修体制・マニュアル整備・職員の就業環境整備などの強化に取り組み、ホームのレベルアップを目指して努力し、職員も自覚と責任を持ってケアサービスに取り組んでいます。「身体拘束の無いケア」についても、法人で見直されたマニュアルに掲げられた「切迫性、非代替性、一時性」の三原則について学び、全職員が理解し実践しています。職員は、利用者常に笑顔で穏やかに接し、尊厳有るその人らしい暮らしを支援し、共に支え合う関係作りを努めています。家族とは来訪時や電話の際に意向を促し、毎月発行のホーム便りや個別のお便りで、日々の暮らし振りを報告し、家族の安心に繋げています。地域との繋がりがもたれ、深まっており、町内会行事への参加及びツクイ主催の秋祭りや避難訓練、運営推進会議に地域住民の参加協力が得られています。また、職員による町内清掃協力、近隣小学校生との交流など、地域貢献にも取り組み、地域に根ざしたホームとして信頼されています。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない		

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I.理念に基づく運営</b>						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の基本理念は毎日朝礼の際に唱和している。	開設時の理念を、地域密着型サービスの意義と重ね合わせ、改めて全職員で協議し作り上げています。新たに具現化した理念は職員間で共有を図り、申し送り時に唱和しながら、サービスの実践に努めています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している	挨拶、町内会行事への参加、週1回の周辺の清掃活動を通して日常的に交流している。	町内会に加入し、町内会行事への参加は勿論、ツクイ主催の秋祭りへの参加も頂いています。職員は、町内の清掃活動に協力し、地域住民には運営推進会議に参加して頂き、ホームへの理解や協力が繋がっています。近隣の小学生の来訪もあり、地域との交流を深めています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々には運営推進会議を通して認知症を正しく理解して頂くための情報を提供している。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月1回の開催で地域町内会との情報交換を行い、良きディスカッションの場になっている。	行政職員、町内会役員、民生委員、家族等多数の参加を頂き、併設の小規模多機能施設と合同で2ヶ月毎に開催しています。運営状況、利用者状況、行事案内、避難訓練、外部評価等の報告に加えて町内会からも議題提案が有り、多方面に渡った意見交換が行われ運営に活かしています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	手稲区の保健支援係や保護課の方には困難事例を含め、相談し助言を頂いている。	管理者はグループホーム協議会に参加し、情報の共有を図っています。市や区の担当者とは、利用者の個別的な課題について随時相談しアドバイスを頂き、協力関係を築いています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所に於いて身体拘束に至るケースはないが全社的な取り組みとして事業所が安易な判断、方策を講じないよう規制されている。	ツクイ本部で整備されたマニュアルを基に、2ヶ月毎に研修会を開催し、身体拘束の弊害について学び、周知徹底に努めています。特に、外出傾向にある利用者への対応として、その原因を掘り下げて職員間で話し合い、利用者の思いを理解しようと努力しています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者、職員、看護職員はき高齢者虐待や身体拘束についての研修の機会を定期的を持ち、それにあたる行為について理解を深め、防止に努めている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的に研修会を開き、職員に対し権利擁護の意義について学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	主に管理者が契約等を行い、懇切丁寧且つ質疑応答には正確に伝えている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族等に頂いた意見・要望等については事業所より上長、本社にも報告を行い改善している。	家族とは来訪時や電話の際に、意見や要望を引き出せる様に、雰囲気作りに努めています。家族には日々の暮らしを理解して頂ける様に、毎月発行のホーム便りに個々の手紙も添えて利用者の状況を報告しています。職員は家族の意向の聴取に努め、利用者と家族の絆を深める努力をしています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な面談を通じて職員からの意見・提案を広く受けている。	毎月の合同会議やその後のユニット別のカンファレンスにて、ケアサービスの提案や業務上の要望等について職員間で話し合い、運営に反映させています。管理者との個人面談も定期的を実施し、職員個々に応じたケア目標への働きかけや要望、提案を聞く機会を設け、働く意欲の向上に努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働時間については変形労働時間制を則り、過重労働にならないよう配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症介護実践者研修を計画的に受講し、サービスの質の向上を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市や区の管理者会議や研修に参加し、その都度テーマを決めて学習したり、悩みを一緒に考えたりしています。又、近隣のグループホームへ訪問し交流の機会を持つ事もあり、取り組みを参考にしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	インテークの段階からご見学を含め、複数回面談しながら真のニーズを引き出している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に、管理者、看護師等がそれぞれの視点でご家族にお会いする機会を持ち、抱えている不安や要望をお聴きして、対応策を話し合い援助させていただけるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ニーズを洗い出し、当面の方向性を見出します。事業所のサービス提供に於いて不足する部分については他のサービス利用を含めて検討します。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	基本理念にあるように利用者様と共に生活し、暮らしを支えることを信条とし実践しています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には受診同行、電話によるご本人との会話等のご支援を受けています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、知人の方々の来訪は少ないのですが何時でもご来訪頂けるようにしている。	利用者の懐かしい友人や信仰する宗教関係者等の訪問を受けたり、家族の協力で温泉や行きつけのお店での食事や買い物を楽しんでいます。職員は、電話の取次ぎや手紙や年賀状の代筆も行う等、継続的な交流を支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士のカップリングは出来ていないが互いを認める事ができるよう職員が介在している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了してもご縁を大切に気軽にご相談が頂ける関係をつくっている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人が意思を示す事は困難であるが個人尊重を基本とし支援している。	担当職員を中心に、全職員が利用者との会話の機会を多く持ち、一人ひとりの言葉や仕草を見落とさず、利用者の「姿」を把握できる様に洞察力を高めています。生活歴や家族からの情報も参考に、意向に沿った支援に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居当時はセンター方式のA、B、Cシートを利用しアセスメントを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活記録や、複数の職員の観察力から総合的な把握に努め、申し送りやミーティング時に情報を持ち寄り現状を把握して共有しています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族には、毎月お便りにて生活状況、課題を報告し、ご意見・ご希望をいただき、ご本人からの聴き取りと合わせてモニタリングで職員の意見を出し合い、ご本人、ご家族の思いを反映した介護計画を作成しています。	介護計画は、利用者個々の担当職員がモニタリングを行い、気付きや意見をユニット会議や定期ミーティング時に報告し、全職員で話し合い検討しています。個別援助計画を立て、事後評価表で利用者、家族の意見を伺い、介護計画に活かしています。3か月毎に見直され、急変時には随時見直しを行っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は、個別の記録に記入しています。ケアする中で気づいた重要事項や工夫は申し送りノートやヒヤリ・ハットに記入し、職員全員が目を通し、実践、介護計画を見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	対応できないご家族の為の通院介助の実施、ご家族との外出時の車椅子貸与、複合型施設の利点を生かし、デイサービスや小規模多機能との連携等に取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会との交流、小学生や訪問、ボランティアの方による定期的な音楽療法の実施で、楽しみを持っていただける支援に努めています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科は定期的な往診と個別の馴染みのかかりつけ医による受診、又、歯科も定期的な往診にて対応しています。その他看護職員の援助で適切な受診に努めています。	医療連携体制が整備されており、協力内科及び歯科の定期往診と看護師職員によるバイタルチェックにて日常の健康管理が行われています。かかりつけ医の受診も家族の意向に沿って支援しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	非常勤の看護師2名を配置し、定期受診、緊急対応、夜間オンコール体制を整備した。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者様の入院時、病状や退院の目途を把握できるように医師や看護師から情報を得ています。退院時には留意すべき事項を確認し、戻る生活に混乱がないように努めています。又、受診や往診時に情報交換できる関係作りにも努めています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り介護について指針を示し、ご家族と入居時より意向を伺っている。	重度化や終末期に向けた対応指針を整備し、本人・家族に説明し、同意を得ています。現状では看取りの経験はありませんが、重度化した場合、医療との連携体制がスムーズに運べるのか検討しています。職員は内部研修にて看取りケアを学び、スキルアップに努めています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入社間もない職員に対して教育は不十分である。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議の中で避難場所や設備について相互の協力と理解が得られるよう取り組んでいる。	マニュアルを作成し、消防署の指導の下に年2回、昼夜を想定した避難訓練を地域住民の参加を得て実施しています。緊急時対応の連絡網の整備、自動火災通報装置、スプリンクラーも設置され、避難場所も確保しています。	火災に加え、地震、風水害等の自然災害に備えた避難訓練の実施を期待します。災害備蓄品も飲料や食料に加えて、防寒着、医療記録、服薬、衛生用品等、随時準備にかかり、更なる防災強化への取り組みを期待します。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	定期的な研修、ミーティングでの話し合いで学習を重ね、日々のケア、特に言葉遣いについて再確認する機会を持ち、対応しています。	職員は身体拘束に関わる研修や定期ミーティングで、利用者への声かけやケアサービス時での対応方法について話し合い、接遇マナーも学び、再度確認しながら対応しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望を表現できる環境作りを意識し、言葉だけではなく表情などからもくみ取り、お気持ちに近づけるよう努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	長年の生活習慣や、お気持ちに配慮し、自室で横になったり、好きなテレビを観たい等、それぞれのご希望に沿えるよう支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容室の利用で、染め、カット等の希望をご本人にお聴きしています。入浴や起床時には会話しながらお好みに合わせてご用意しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は楽しみにされているので、お好みの物をお出ししています。食材切りや後片付けは経験を活かしていただき、職員と一緒にしています。	食事が利用者にとって楽しみ事になるように、好きな物や食べたい物を把握し、献立を作成しています。外食や行事食も取り入れ、日々の食事が豊かになる様に支援しています。ただ今年から、職員は利用者と同じ食事を取れなくなっています。	グループホームの特色として、利用者と職員が同じ食卓を囲み、同じものを食べる事が、料理に関する共通の話題に会話が弾み、楽しい時間を共有する意味で大切なので、再度環境の見直しを検討することを期待します。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	情報を収集して献立を作成し、個々の体調や好みに合わせた量、味付け、形態を工夫しています。食事量、水分量はその都度記入、必要な摂取量を保持できるよう支援しています。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、就寝時の口腔ケアは、個々の口腔状態に合わせて実行しています。自力でのケアが困難な方には、トラブル防止の為に口腔外科受診で指導を受け、対応しています。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご自分でトイレへ行こうとされない方には、定期的に、又表情や様子を観察してトイレへご案内しています。日昼は尿漏れパッドを使用するなど、ご本人の負担を減らせる工夫をしています。	排泄チェック表を活用し、羞恥心やプライバシーに配慮したさり気ない声かけや誘導支援で、殆どの利用者はトイレでの排泄を行っています。衛生用品も利用者の要望や状態に合わせた物を使用しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便の為に、好みの飲み物による水分摂取の促し、食事内容の工夫、歩行やリハビリ体操へのお誘いをしています。日々の排便確認で下剤の調整、減少に努めています。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	介助を要する方は、曜日を決めて午後に対応しています。拒否のある方には、無理強いしないお誘いです。了承して頂き、気持ちよく入浴して頂けるよう支援しています。	週2回を目途に、曜日を決めて午後からの入浴で支援しています。拒絶される利用者には、無理強いせず、声かけやタイミングを図り支援しています。衛生保持のため、シャワー浴も行っています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	これまでの生活習慣や、その日の体調を考慮して日中ベッドで横になったり、フロアで傾眠や寛がれる時間を大事にして見守りしています。テレビの音量等、環境にも配慮しています。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬についての情報は、送りノートや申し送り、ミーティング等を通じて共有し、学習に努めています。副作用が見られる等、職員の情報は重視して、看護職員、医師と相談のうえ、中止についても検討しています。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の利用者様に投じた役割を持って頂いています。お好きな飲み物やおやつをお聴きして購入したり、新聞をご用意する等の支援をしています。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出時にご家族にも協力して頂きながら、利用者様、ご家族、職員の交流の機会にしています。食品の買出しに同行して頂き、ご本人の嗜好品を選んで頂きます。町内会の方々のご協力で町内会行事には安心して参加させて頂いています。	事業所周辺は坂道で散歩には不向きですが、近隣の公園での散歩やゴミ出し、買い物は日常的に行われています。季節ごとの外出も家族の参加を得て、手宮公園の紅葉狩り、開拓の村見学、定山溪の足湯体験等楽しんでます。町内会行事へも住民の協力で楽しむ事が出来、閉じこもらない支援に努めています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理が可能で、希望される方には、ご自分の財布にお小遣いを入れて自室で管理されています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は、家族が遠方の方と会話する大事な機会なので、希望される方には時間を考えた上でご使用、又は取次ぎしています。年賀状や手紙の代筆もしています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアの壁には、季節感を取り入れた飾り付けを、利用者様と共に作成しています。又、地域の小学生からの贈り物を展示して、歩行時に和んでいただいています。	ホーム内はバリアフリーになっており、車椅子や歩行器での移動もスムーズに行えます。広く明るい共有空間にはリビングの他に随所にパブリックスペースが用意され、其々に寛げる居場所が確保されています。壁にはスナップ写真や利用者の手作りの品、小学生が作成した壁新聞など飾られ、季節や生活を感じさせる工夫が伺えます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ、椅子、テーブル等をフロアに用意して、お一人でゆっくりと過ごしたり、お仲間同士で休める空間を作っています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にご家族にも説明して、安心して過ごせる馴染みの家具等を持参していただいています。入居後もその都度家族に依頼して持参して頂く事があります。その際には安全にも配慮して、ご家族や職員と検討しています。	居室には利便性の有る大型のクローゼットが設置されています。調度品は馴染みの家具や仏壇を持ち込み、本人、家族の意向を尊重して使い易く配置され、安心感のある落ち着いた居場所になっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレ、浴室に手すりを取り付け、自室に名前の表示をし、混乱を防ぎながら自立生活を送れるよう配慮しています。夜間の歩行が危ない方には、安全な導線を作り、自立歩行を保持できる工夫に努めています。		